

「出題の意図」

選抜区分	2023 年度 （選抜区分：一般選抜・前期） 経済学部 （科目名：英語）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>1. 出題の背景・求める能力</p> <p>I</p> <p>世の中の規範・ルールを律儀に守ろうとする日本と、より柔軟な対応をしがちなアメリカとを比較した資料から出題した。内容がやや抽象的なので、理解しづらい箇所があったかもしれない。そのため、全体の論旨をまず把握することが、正解・不正解の大きな分かれ目となる。</p> <p>設問の種類は、英文和訳、括弧内に入る適切な語句を選ぶ問い、文意を日本語で説明する問い、などである。</p> <p>II</p> <p>大規模な自然災害に対して、人々をどのように避難させて被害を最小限にできるのかを論じた英文から出題した。問 1、問 2、問 4、問 5 は、出題文の内容を正しく理解できているかどうかを試す英文和訳の設問である。文章全体の論旨と流れについての読解力が求められる。問 3 は、前出の語句を“the”で受けて比喩的に言い換えるという、英語に特徴的な言い回しを正しく理解しているかを試す設問である。問 6 では、出題箇所の一文の意味が理解できていることが正解につながる。</p> <p>IIIとIV</p> <p>和文英訳の基礎的な能力を問う出題である。SV、SVC、SVO、SVOO、SVOC の英語 5 文型がまず正しく設定されているかどうか、全体として日本語の内容に則した英文になっているか、そして、単語が正しく使われているかどうか、評価の主なポイントとなる。</p> <p>2. 解説(解法)</p> <p>I</p> <p>問 1：not ～ but 構文であることに気づくことが正解につながる。</p> <p>問 2：「鶏が先か、卵が先か」の意味であることを理解したうえで、出題箇所の前文の意味が読み取れていることがポイント。</p> <p>問 3：出題資料は、規範・ルールに対して tight な日本と loose なアメリカを比較している、という大枠を押さえたうえで、出題箇所の文意を読み取れば正解できる。</p> <p>問 4：日本の nice tightness の例として、列車のことが説明されている。規範・ルールを遵守する様子として最も当てはまるものを選べばよい。とりわけ (4-1) のなかで tight なものは、②であるとわかる。</p>

問 5 : 規範・ルールに真面目な日本の中でも、地域によってはそうでもない、という文意なので、例外もあるという内容であることを読み取れば正解につながる。

問 6 : much more……than という文の骨格を正しく伝える訳文にすることが重要。

II

問 1 : 直前の一文の内容を説明することで、正解となる。

問 2 : 災害からの避難の話であることを押さえると、path と cleared が何を意味しているのかを読み取ることができる。

問 3 : the が前出の語句を受けていること、missile が比喩的な表現であることに気づけば、正解につながる。

問 4 : no one……would be safe という S V の構造を理解し、その中に except……ground が入っていることに気づけば、正しく和訳できる。

問 5 : 設問箇所の段落では、災害の到来時期が予測しづらい場合には、人々の切迫感が薄くなって避難せずにいる、といった事態が説明されている。そのことが理解できていれば、おおむね和訳できる。

問 6 : ハリケーン・カトリーナの際に、避難が呼びかけられたにもかかわらず、居残ってしまい多くの犠牲者が出た、との文意が理解できていることが、正解につながる。

IIIとIV

解答文の全体の構造が、英文として適切であるかどうか、まずは大切なポイントである。そのまま直訳しても、適切な英文にならない場合には、意識を多用することが必要である。そのうえで、適切な単語や言い回しが含まれていることが、さらなる加点につながる。

3. 受験へのアドバイス

出題文の大意を理解することが、全体的に正解できるかどうかを左右するので、日ごろの英語の学習では、読後に「この資料では全体として何をテーマにして説明されているか」を頭の中で文章化すると良いだろう。

また、全体的に、英単語の意味を暗記するときは、一つの意味だけではなく複数の意味を憶えるべきである。

英文和訳の設問では、例年、関係代名詞、仮主語、が頻繁に出題されている。そうした設問に慣れるように同種の設問を多数解いておくことが、正解につながる。

I の問 3 は、[]に入れる設問なので、英文が正しくなるように、loose, tight と形容詞型ではなく、looseness, tightness と名詞型で答える方が、より正解といえる。

I の問 6 では、words を world と誤解している解答がいくつかみられた。

つづりの似ている単語は、混同して記憶されることが多いので、単語暗記の教材をみるときは、その点を意識して区別しながら復習を重ねるとよい。

Ⅱの問1では、前段の **get ~ out of** を理解できていない答案がいくつかあった。単語と同時に連語も日ごろから意識して憶えることが大切。

Ⅱの問3の設問は、「英語を書きなさい」であるのに、日本語で解答しているものがあった。設問文の読み落としはもったいないので、落ち着いて取り組むことが望まれる。

Ⅱの問5はやや正解率が低かったが、災害から避難するか留まるか、という対比が理解できていれば、大枠を外さない解答が可能である。

ⅢとⅣでは、英訳するにあたって適切な英単語を使えることが重要である。日ごろから「この日本語は英語では何と言うのだろうか？」と疑問を持つ習慣をつけることが、単語力のアップにつながる。

和文英訳の設問では、設問文（和文）の誤読はほとんどないので、正解率を主に左右するのは、文法と単語の正しさである。たとえば、Ⅲの「涙をふき」で **wipe** ではなく **swipe** と書いているなど、減点の対象となった。つづりが似た単語は混同しやすいので、常にそのことを意識して、辞書を引いたら赤線を引き、新しい単語を引いたときには、赤線が引いてある他の単語も復習して、混同しないよう記憶を積み重ねることが、一つの効果的な方法であろう。